

留萌市高齢者・介護保険アンケート調査報告書

(第6期 日常生活圏域ニーズ調査)

《概要版》

皆様には、日頃から留萌市の高齢者福祉・介護保険事業にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
先日実施した留萌市高齢者・介護保険アンケートでは、皆様の生活実態や生活支援ニーズに関する価値ある情報と貴重なご意見を得ることができました。今後は、得られた情報を踏まえ、市としてより良い高齢者福祉の実現に向けた施策に生かしてまいります。

I. アンケート調査の概要

1. 調査の概要

調査対象	平成26年6月1日現在、市内に在住する65歳以上の方、3,000人
抽出方法	無作為抽出
調査期間	平成26年6月26日～平成26年7月11日
調査方法	郵送による調査票の配布・回収

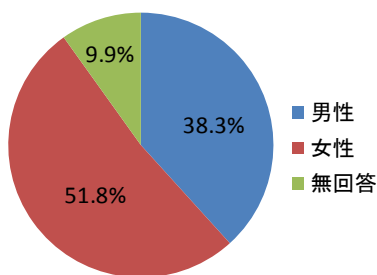
2. 調査票の回収結果

調査票配布数	回収数	回収率
3,000	1,993	66.4%

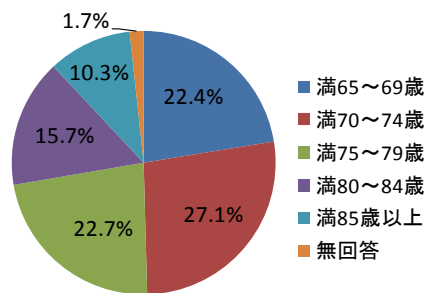
II. 集計結果の概要

1. 回答者の属性

《ご本人の性別》
回答者 1,993人

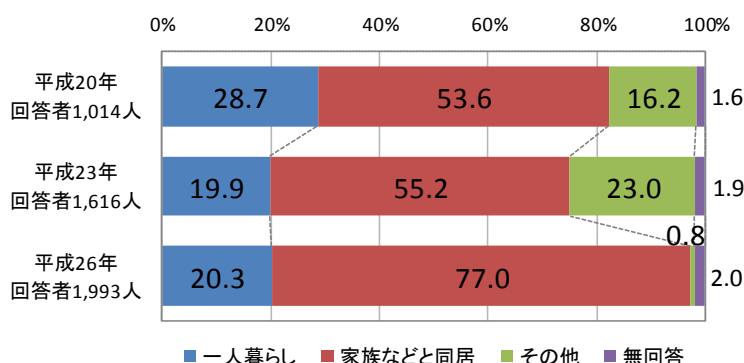


《ご本人の年齢》
回答者 1,993人



2. ご家族や生活状況について

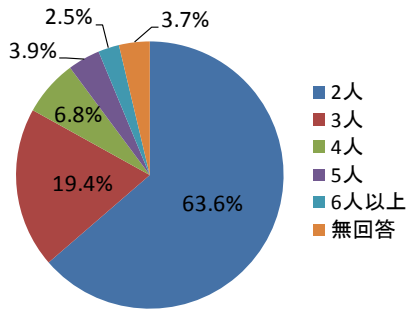
(1) 家族構成 (回答者 1,993人)



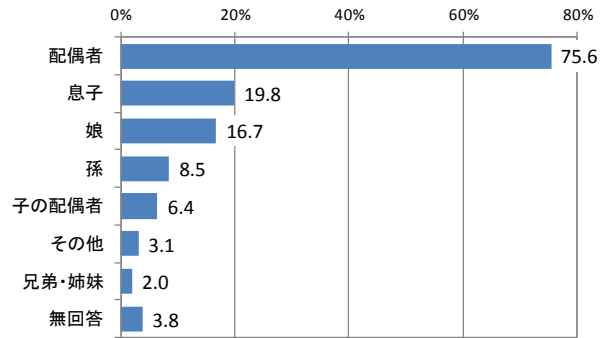
「一人暮らし」の人は前回とほぼ同率の20.3%となっています。

「家族など同居」は77.0%で前回から約20ポイント増となっていますが、前回以前の調査では「夫婦世帯」、「一人暮らし、夫婦世帯以外の65歳以上世帯」、「その他世帯」と選択肢が分かれていたため、「その他」に含まれていた家族同居世帯が、今回調査の「家族など同居」と回答したためと考えられます。

(2) 同居人数 (回答者 1,535 人)

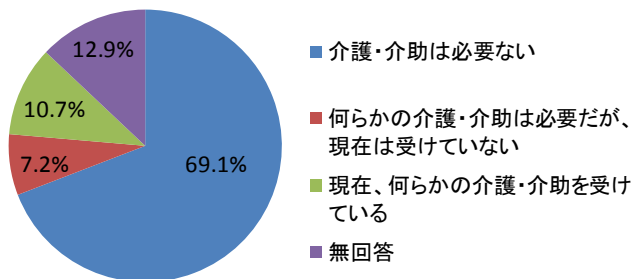


(3) 同居者 (回答者 1,535 人、複数回答)



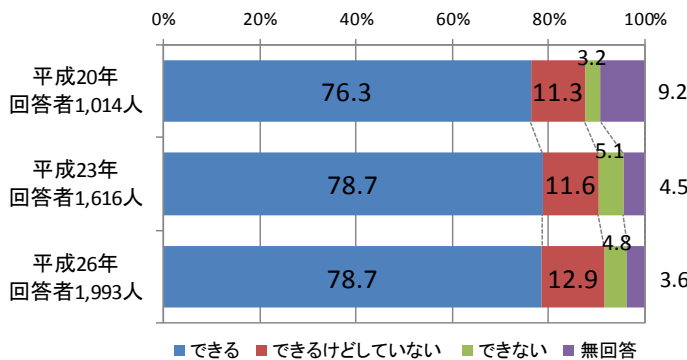
「家族など同居」と回答した人の同居人数は、「2人」が63.6%を占めて最も多く、次いで「3人」(19.4%)、「4人」(6.8%)と続いています。同居している家族は、「配偶者」が75.6%を占めており、「配偶者と2人で暮らしている高齢者世帯」が市内に多くの割合で存在することが推測されます。

(4) 普段の生活で介護・介助が必要かどうか (回答者 1,993 人)



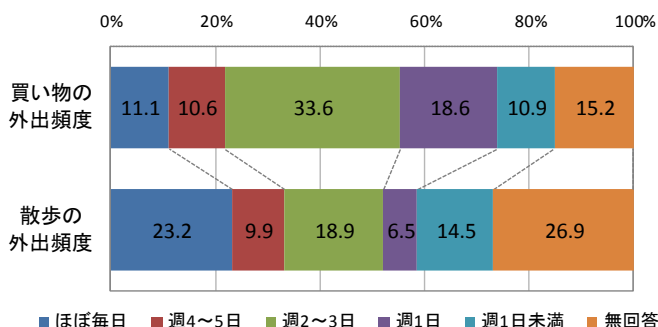
普段の生活で介護・介助が必要かどうかの設問では、「介護・介助は必要ない」が69.1%で最も多くなっていますが、「現在、何らかの介護・介助を受けている」人が10.7%みられます。また、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」の回答は7.2%でした。

(5) お金の管理と支払い (回答者 1,993 人)



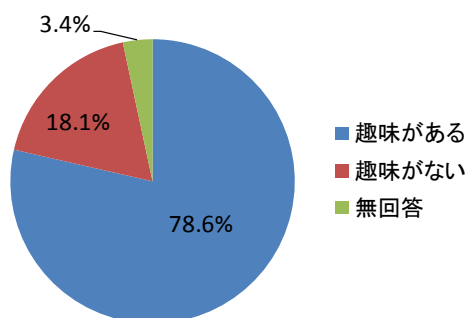
お金の支払いと管理については、「できる」と回答している人が平成26年は78.7%となっており、平成23年、平成20年の調査時とほぼ同率となっています。「できない」と回答している人も、過去の調査とほぼ同率となっており、経年による大きな変化はみられませんでした。

(6) 外出の頻度 (回答者 1,993 人)



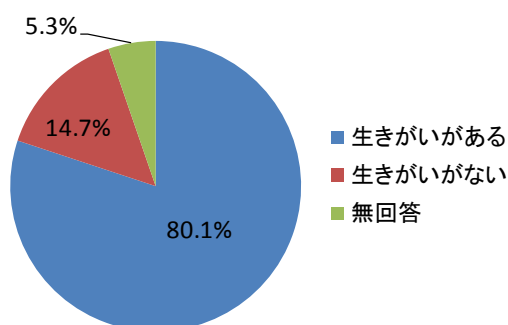
買い物の外出頻度は、「週2~3日」が33.6%で最も多くなっています。散歩の外出頻度は「ほぼ毎日」が23.2%で最も多くなっています。外出の頻度が「週1日未満」と回答した人は、買い物で10.9%、散歩で14.5%となっており、市内の1割強の人が、買い物・散歩での外出頻度が週1日未満となっています。

(7) 趣味があるかどうか (回答者 1,993 人、複数回答)



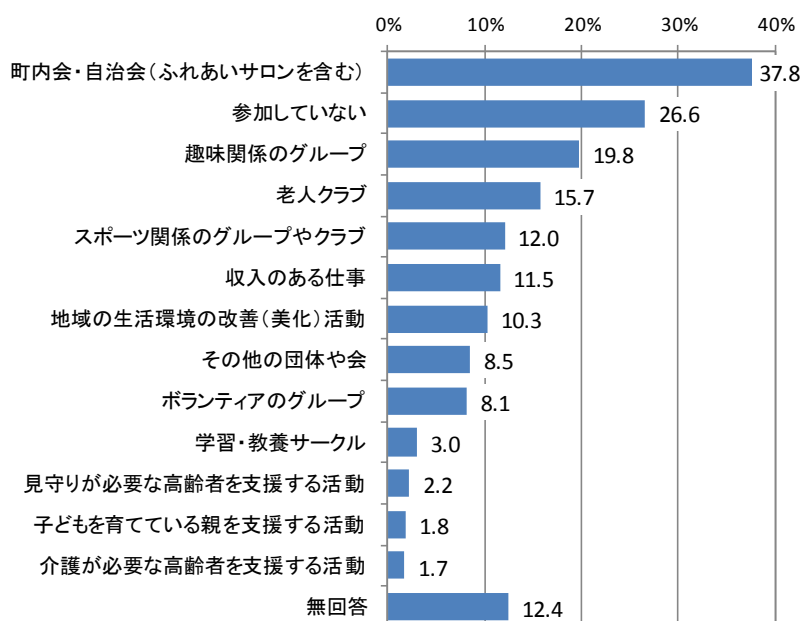
趣味があるかどうかの設問では、78.6%の人が「趣味がある」と回答しており、高齢者の8割弱は趣味があると考えられます。一方、18.1%の人は「趣味がない」と回答しています。

(8) 生きがいがあるかどうか (回答者 1,993 人、複数回答)



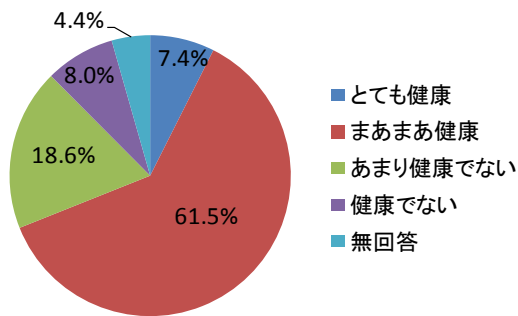
生きがいがあるかどうかの設問では、80.1%の人が「生きがいがある」と回答しています。一方、14.7%の人は「生きがいがない」と回答しています。

(9) 参加している会やグループ (回答者 1,993 人、複数回答)



参加している会やグループは、「町内会・自治会 (ふれあいサロンを含む)」が 37.8% で最も多く、次いで「参加していない」(26.6%)、「趣味関係のグループ」(19.8%)、「老人クラブ」(15.7%) と続いています。

(10) 普段、自分が健康だと思うかどうか (回答者 1,993 人、複数回答)

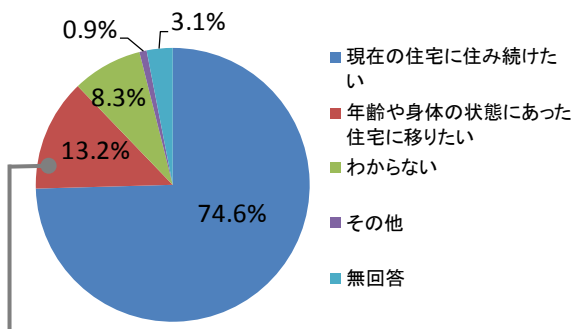


高齢者本人の健康感は、「まあまあ健康」が61.5%で最も多く、次いで「あまり健康でない」(18.6%)、「健康でない」(8.0%)、「とても健康」(7.4%)の順となっています。

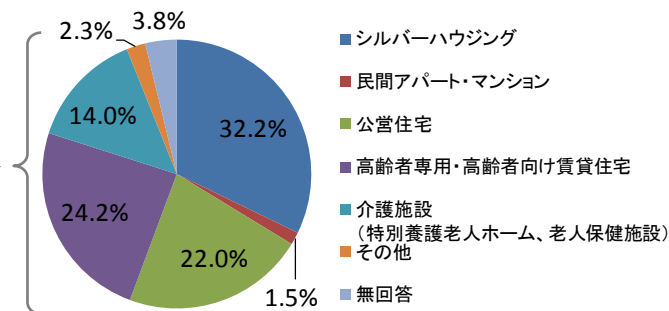
「とても健康」と「まあまあ健康」を合わせると、概ね7割の人がご自身のことを健康であると感じています。

3. 将来の住まいについて

(1) 今後も現在の住宅に住み続けたいかどうか (回答者 1,993 人)



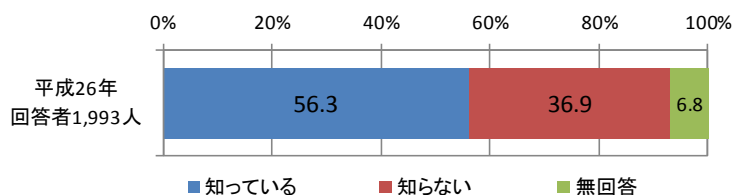
(2) 移り住みたい住宅の種類 (回答者 264 人)



将来の住まいについて、「現在の住宅に住み続けたい」と回答した人は74.6%を占めています。「年齢や身体の状態にあった住宅に移りたい」と回答した13.2%の人が移り住みたい住宅の種類は、「シルバーハウジング」が32.2%で最も多く、次いで「高齢者専用・高齢者向け賃貸住宅」(24.2%)、「公営住宅」(22.0%)と続いています。

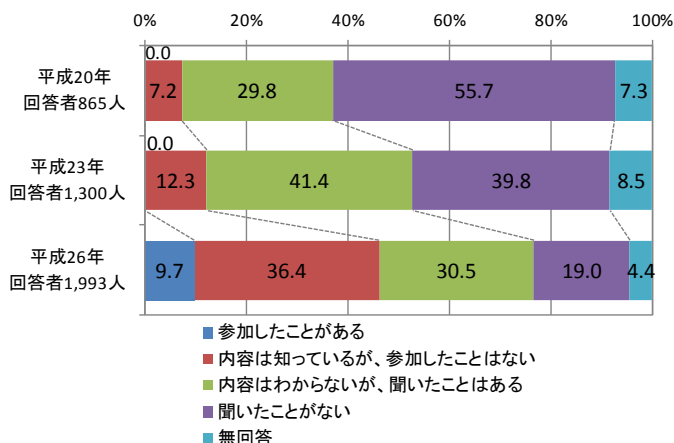
4. 高齢者福祉事業について

(1) 「権利擁護事業」・「成年後見人制度」の認知度 (回答者 1,993 人)

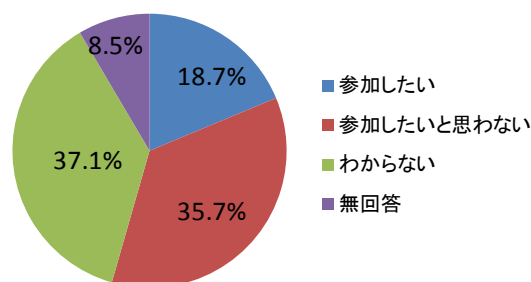


「権利擁護事業」・「成年後見人制度」を「知っている」人は56.3%となっています。全体の半数以上の人に認知されている状況です。

(2) 介護予防教室の認知度
(回答者 1,993 人)



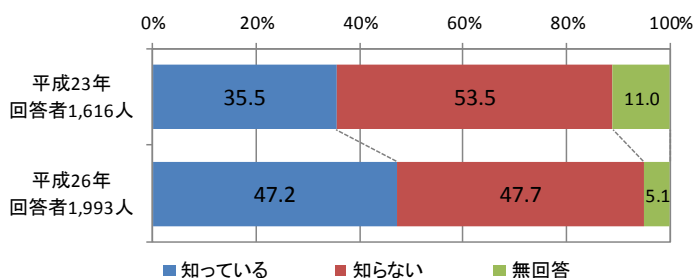
(3) 介護予防教室の利用意向
(回答者 1,993 人)



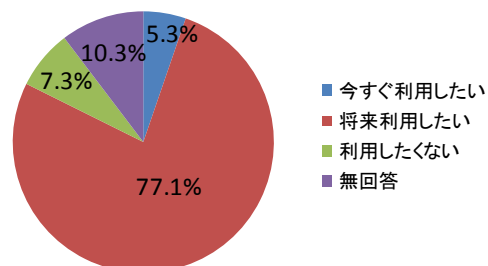
ピンピンからだ広場・脳いきいき教室などの介護予防教室は、年々認知度が高くなっています。平成 26 年は「参加したことがある」、「内容は知っているが、参加したことはない」、「内容はわからないが、聞いたことはある」の合計で 76.6%となり、概ね8割弱の人に認知していただいている状況です。

介護予防教室の利用意向は、「わからない」が 37.1%で最も多く、次いで「参加したいと思わない」(35.7%)、「参加したい」(18.7%)と続いています。

(4) 緊急通報システムの認知度
(回答者 1,993 人)

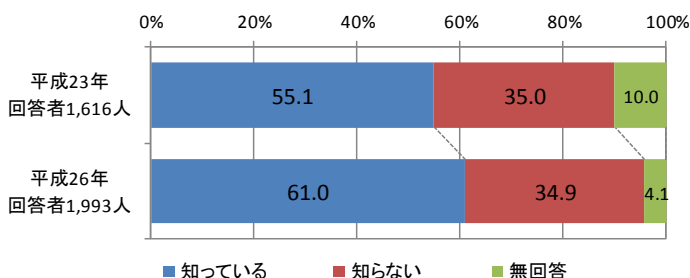


(5) 緊急通報システムの利用意向
(回答者 1,993 人)

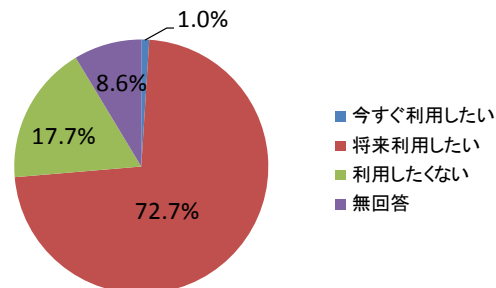


緊急通報システムを「知っている」人の割合は前回調査時よりも 10 ポイント以上増え、47.2%となっています。緊急通報システムの利用意向は、「今すぐ利用したい」(5.3%)、「将来利用したい」(77.1%)の合計で 82.4%に達しています。

(6) 給食サービスの認知度
(回答者 1,993 人)



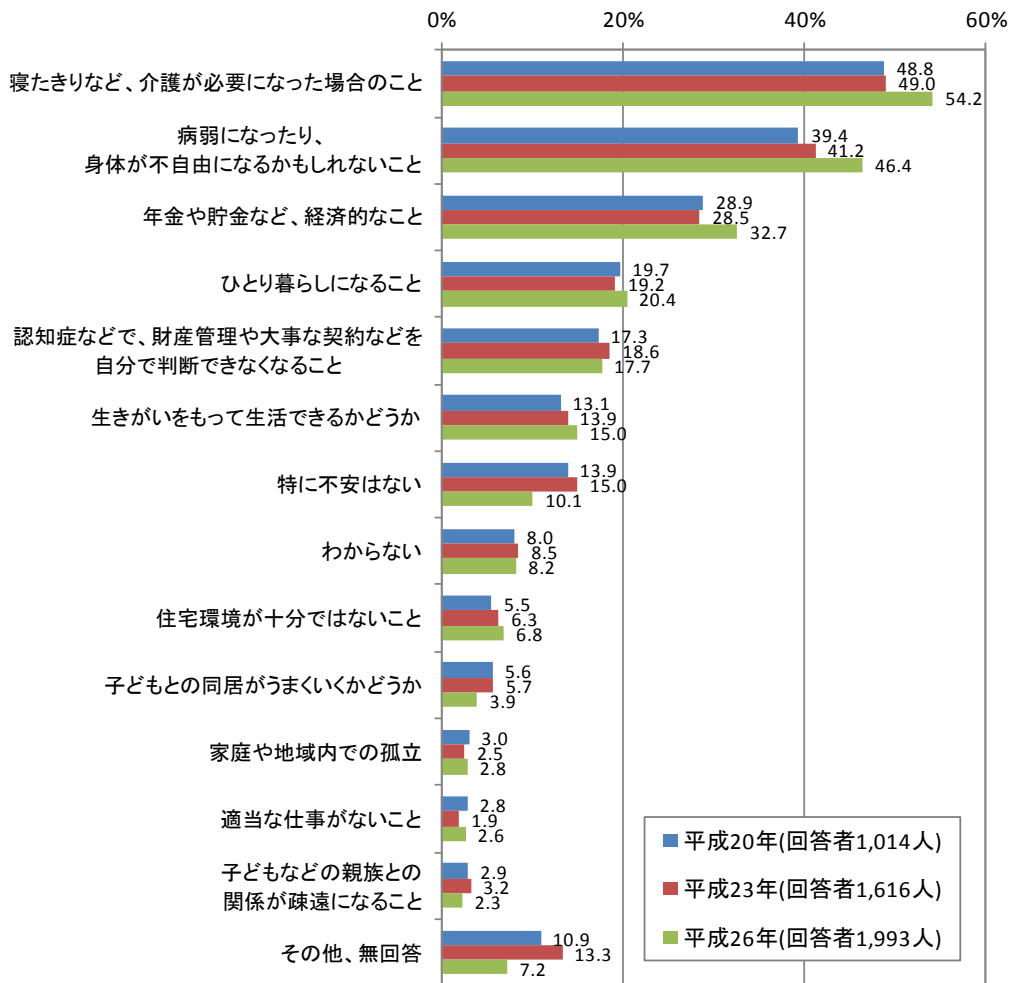
(7) 給食サービスの利用意向
(回答者 1,993 人)



給食サービスを「知っている」人の割合は前回調査時から約 6 ポイント増の 61.0%となっています。給食サービスの利用意向は、「今すぐ利用したい」と回答した人は 1.0%ですが、「将来利用したい」と回答した人は 72.7%となっています。

5. 今後のことについて

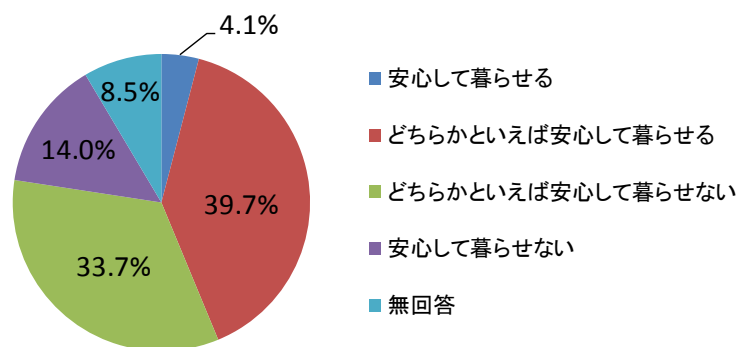
(1) 将来の不安や心配ごと（回答者 1,993 人、複数回答）



将来の不安や心配ごとは、主要な順位は過去の調査とほぼ変化はなく、「寝たきりなど、介護が必要になった場合のこと」が54.2%で最も多く、次いで「病弱になったり、身体が不自由になるかもしれないこと」(46.4%)、「年金や貯金など、経済的なこと」(32.7%)と続いています。

上位3つの項目は、前回調査時と比較してそれぞれ約5ポイント増となっており、要介護状態や経済状況についての不安や心配ごとが多くなっていることがうかがえます。

(2) 高齢者が安心して暮らせるまちかどうか（回答者 1,993 人）



高齢者が安心して暮らせるまちかどうかの設問は、「どちらかといえば安心して暮らせる」が39.7%で最も多くなっています。